



表紙の写真はうっすらと雪が積もった京都・嵯峨野です。

僕は大学生で京都に来て、初めて積もった雪を見ました。

まだ18歳の冬の事。それからしばらくは雪が降るような寒い冬が大好きだったのですが、

30年を優に超えた今は、雪なんかとんでもありません。寒さがとって苦手になってしまいました。

「降る雪や 昭和は遠く なりにけり」なんて思ってしまう。

先日、遅ればせながら話題の映画「ボヘミアン・ラブソディ」を観てきました。

それこそ昭和の時代、中学・高校生の時にクイーンは聴きましたが、特にファンというわけではありません。

それでも映画に使われた曲は馴染みのある曲ばかりだし、何よりクライマックスの圧巻のステージは、本当に俳優が演じているのかと感ずるほどの心を揺さぶられる迫力。映画館に行ったのも10年以上ぶりでした。

思えば「映画」って昭和を代表する娯楽ですが、今でも映画は素晴らしいですね。(^^)/



今の時代、スマホにコンビニに Amazon 等、昭和に無かったものは数えきれないくらい

いっぱいありますが、最近話題の「退職代行サービス」ってご存知でしょうか？

退職を希望する人が「LINE」やメールでサービス提供会社に依頼し3~5万円程度の費用を支払うことで会社への退職の申し出を代行してくれるというものです。

「一度も出社せず、上司や同僚に会わずに退職できる」ことを売りにしている業者もあります。

退職代行サービスの業者に割り込まれると満足な職務の引き継ぎも期待できません。

もし、僕が突然部下の代行を名乗る業者から退職の連絡が来たらショックを受けます。

きっと、あのどこか儼かでどこか幻想的な「ボヘミアン・ラブソディ」の冒頭のハーモニーが頭の中を駆け巡るに違いありません。

♪ Is this the real life (これは現実か?)
Is this just fantasy (ただの幻想なのか?)



これって現実?



「立つ鳥跡を濁さず」ということわざがありますが、「退職」という大切なことをお金で人に頼む、なんて以前では考えられなかったことです。

このようなサービスが生まれて広がっている背景には、未曾有の求人難と高い転職求人倍率、つまり会社は何とか引き留めたい一方、退職者は早く次の会社に行きたいというご時勢があります。

さらに、株式会社エン転職が公表したアンケートによると、一身上の都合を理由とする退職者の**本当の退職理由は「人間関係」がダントツで1番目**、評価に対する不満が2番目。

それら本当の退職理由の対象は、おそらく上司だと想像できます。

退職にあたって、面倒な上司との話し合いを避けたいという依頼者の考えもあるでしょう。

最大の職場環境は「上司」です。「退職代行サービス」による退職の申し出を、無責任だと退職者個人の資質の問題で終わらせるのではなく、そこに至った経緯を省みないと職場の前進はありません。

例えば、常日頃の互いの「**報連相**」を通じて、上司と部下との間で「**目的の共有**」、「**思いの共有**」はできていたのでしょうか。ちなみに「**報連相**」という言葉は昭和に出来た造語だそうです。



昨年行方不明の男児を救出した「スーパーボランティア」尾島春夫さん(79歳)が、先日1月18日に東京の小学校で講演をされた際のこと。生徒からの「一番大切にしていることはなんですか?」との質問に尾島さんは「**人に優しく己を小さく。これを私は常に心がけています**」と答えられたそうです。

僕らは、「昭和」を遠くにしてしまっではいけません。

